「県民と県議会との意見交換会」　洋野町会場　の概要

〔日　時〕　令和４年12月20日（火）13：00～15：00
〔場　所〕　洋野町民文化会館　コミュニティーホール
〔テーマ〕　女性が活躍できる地域産業のあり方について
〔参加者〕　（６名）
廣　内　留　美（一般社団法人久慈市観光物産協会　事務局次長）
十門地　由加里（岩手県建設業女性協議会久慈支部　支部長）
田　口　晃　子（株式会社南部美人　財務部経理担当）
田　村　真樹子（株式会社二戸サントップ　総務課係長）
岩　渕　綾　子（カフェこちゃや　店主）
高屋敷　恵美子（洋野町漁業協同組合　宿戸女性部部長）
〔出席議員〕（８名）
菅野ひろのり議員（座長）、軽石義則議員、岩城元議員、神﨑浩之議員、工藤大輔議員、中平均議員、佐々木努議員、上原康樹議員

◆　参加者自己紹介及び現在の活動状況等について

○廣内さん

洋野町を含む久慈市、普代村、野田村、田野畑村はドラマあまちゃんのロケ地になっており、これまでたくさんの方に来ていただいた。来年は、あまちゃん放送から10年を迎える。観光物産協会の仕事に関わっているが、来年は10周年の節目ということもあり、たくさんの方に岩手県、北三陸に来ていただきたいと、現在観光業に励んでいる。

プライベートでは、10歳と６歳の息子がおり、元気すぎる息子に振り回されながら、母親業も頑張っている。職場の方のサポートをいただき、仕事と育児の両立ということで子どもにいろいろ教えてもらいながら、仕事と育児に励んでいる。

○十門地さん

地元の工業高校を卒業して、21歳で結婚、２人目の子どもが保育園に入ったことを機に現在の会社に入社した。その後27歳で二級建築士、36歳で二級土木施工管理技士の資格を取り、40代頃まで主に現場監督、主任技術者として働き、ここ10年は事務全般、工事の積算等の内業をしている。

私の所属する岩手県建設業女性協議会は、平成４年に建設産業での女性活躍を支援し、総合的な取り組みを推進、情報発信や他団体との意見交換、建設産業を女性にとって魅力ある仕事の舞台にすべく活動するという目的で結成され、現在岩手県内13支部188名、久慈支部９名で活動をしている。

○田口さん

弊社は1902年の創業で、今年120周年を迎えることができた。

私が南部美人に入ったのは５年前になるが、それまでは金融機関に勤めており、その後、縁があり南部美人に勤めることになった。南部美人に勤めて、労務管理や経理などいろいろなことをやってきた。最近の活動としては、フードダイバーシティ、食の多様性について取り組んでおり、二戸フードダイバーシティ協議会の事務局としても活動している。

フードダイバーシティの必要性に気づいたのは弊社の久慈浩介社長である。南部美人のお酒は、現在57か国に輸出しており、お酒をレストランやスーパーなどいろいろな所に販売する中で、ど

このスーパーやレストランでも当たり前にヴィーガンの商品があるけれども、なぜ日本にはないのだろうという疑問が生まれた。二戸地域には、基幹産業の中に豚も鶏も牛も短角牛もあるし、おいしい野菜やきのこ、山菜など、食の宝庫でこんなにいい食材があるのに、なぜヴィーガンやハラルの方たちが楽しめる環境がないのか、食の多様性が必要だということに気づき、二戸市と南部美人、株式会社小松製菓、久慈ファーム有限会社の３事業者で二戸フードダイバーシティ協議会を作った。そういった取り組みの中で、私も切磋琢磨して活動している。このフードダイバーシティについては、ＳＤＧｓの誰も置き去りにしないという理念に基づいて取り組んでいるところである。

○田村さん

私は生まれも育ちも二戸市で、今も二戸市で働いている。二戸サントップに入社して16年になり、総務と経理の実務のほかにも、人事やＳＮＳの運営などもやっている。

弊社は既成紳士服縫製業ということで、メーカーからの受託製造で、既成のメンズの洋服をメインに作っている。レディースも一部やっており、生産比率としては、メンズが９割、レディースが１割程度である。取り引き先のブランドとしては、国内の老舗ブランドであるコム・デ・ギャルソン、アメリカのブランドであるトムブラウンで、こちらの２社はパリ・コレクションのショーにも出展しているブランドで、ショー用のサンプルも弊社でやらせていただいている。次のパリ・コレクションのショーが１月にあり、弊社の現場は２つのブランドのショー用のサンプルでごった返している状況である。ほかにも百貨店で販売されているポール・スミスコレクション、ブルックス・ブラザーズなどの仕事もさせていただいている。

先ほど御挨拶の際に名刺と一緒に青いカードをお配りしたが、そちらは昨年立ち上げた自社ブランド「Ｍａｄｅｎｉ」のブランドカードである。Ｍａｄｅｎｉのブランド名は、岩手県の方言「までに」が由来となっており、まめに、真面目にというニュアンスの方言だが、真面目に真摯に洋服づくりに取り組むブランドという名前にしている。

通常は量産という形でやっているが、Ｍａｄｅｎｉに関しては、オーダーでスーツとコートを取り扱っている。Ｍａｄｅｎｉは、今年の５月にスキージャンプの小林陵侑選手が２度目の県民栄誉賞を受賞した際の贈呈品にも選んでいただき、小林陵侑選手のスーツも作らせていただいている。まだまだ小さいブランドだが、このような形で皆様に知っていただき、地元の皆様に着ていただき、愛していただける洋服を作っていきたいと思っている。

弊社は従業員が74名、女性の割合が８割以上となっており、女性の比率が非常に高い会社である。女性が働くとなると、家庭と仕事の両立というのは、やはりひとつの大きなテーマになってくると思っており、皆が働きやすい会社を目指して取り組んでいる。

○岩渕さん

当店は2017年にオープンし、その間、出産、育児などあり、今年で５年目になる。５年前は、二戸市や九戸村にはカフェは全くなかったと認識している。結婚を機に九戸村に引っ越してきたのだが、カフェがないと思っていた。結婚前に栄養士として仕事をしていたつながりもありカフェをやろうと決心をして、思い切ってオープンした。

私自身も今は４歳、６歳、８歳の３人の子育てをしながらお店をやっていて、小さい子どもを育てる母親たちがくつろげる場所がほしいと思いお店をオープンしたのだが、現在は近所の80代のおばあちゃんや私の母親世代の60代から70代の方々も来てくださって、少しずつ地域に根づくお店になってきたと思っている。

お店以外の活動として、九戸村は鶏肉の生産量が多いところでもあるので、それをアピールしようと、キングオブチキンというキャラクターを支えるスタッフもしており、10人くらいのスタ

ッフで楽しく活動している。

○高屋敷さん

当漁業協同組合は今年４月に合併し、種市南漁業協同組合から洋野町漁業協同組合となっている。宿戸女性部の活動について、役員歴40数年の集大成として発表した結果、全国漁業協同組合連合会長賞を受賞したことを大変ありがたく思っている。

発表後も新型コロナウイルス感染症はますます拡大し、大きなイベントは次々と中止となり、できたのは体験学習の塩ウニづくり、さけトバづくり、そして小学生との植樹祭くらいになる。しかし、うれしいことにその後も部員はふえ続け、今年も春に３名、秋に１名、若い人から働きたいとの申し出があり、新しい仲間がふえている。入ったばかりの女性部員が初めて海に潜ったとき、１個のウニを手に取って楽しいと言ったあのひと言が忘れられない。最高年齢が84歳で辞めていく部員が続くなかで、こうして楽しいと言って働ける部員が、この浜でネット社会で生きる若い人たちにとって、新しい発見と発信を遂げることを切に願っている。

女性部員は浜作業がない日は、企業の社員あるいはパートと二足のわらじを履いており、中には、プラス農業で三足のわらじの方もいる。浜作業と学校行事、あるいは子どもの病気で休める企業が少ないのが現状である。先日参加した大会で、農林水産大臣賞を受賞された大分県の株式会社村上農園というニラ生産農家の若い女性社長の発表が大変参考になったが、その人のその日の行動によって変えられるシフト制で生産性を上げていくというものだった。休んでいる田畑がたくさんある洋野町で、農業と漁業が一体となって、子どもたちが伸び伸びと育てられる、豊かな町ができればいいと思っている。

○菅野ひろのり座長

高屋敷さんから「女性部が担う地域ぐるみの水産キャリア教育」という資料をお配りいただいたが、トピックなどを簡単に御説明いただきたい。

○高屋敷さん

私たちの浜は、経験が浅い人でも女性が自らの漁獲で収入を上げられやすい環境になっている。ウニの収穫というのは、夏の８日間だけだが、８日間で100万円くらいの収入を上げる女性部員もいる。若い人たちは元気なので、仕事をしながら、頑張ってウニ作業に取り組んでおり、子どもたちには漁獲から加工販売まで体験して、収入につなげる楽しさを知ってもらうため、体験学習などを行っている。

冬期間の作業はまつもやふのりなどの海藻取りだが、作業は夜になるため、昼に働いていても、夜は浜作業に出ることができる。そのほかに共同作業があるが、共同作業は家族で誰が出てもいいことになっている。実質的に浜に出なければならないのはせいぜい10日で、あとは家族が手伝ったり、私も主人の代わりに出て、ふのり取りに行ったりするが、１時間から２時間一生懸命取れば8,000円くらいにはなる。今の若いお母さんたちが働きながら収入を得られるということで、浜に入る人がふえてきており、そういう漁場を作ってくれた先代の漁協の人たちのおかげだと思っている。また、新しい野菜がたくさん出ているが、休耕田などを利用して、若い人たちが起業して、シフト制で働ける場所があるといいと思っている。そうすれば、両方で結構な収入になるので、パートでもウニ取りのときは休んでいいという企業がふえればいいと思っている。

◆　意見交換

○岩城元議員

女性が活躍していく中で、働きやすい職場環境のために工夫されている点があればお伺いしたい。また、責任があるポジションになるときには、バイアスというか、私なんかという自分を下げて表現する方もいると聞いているが、女性を登用する際に何か気を付けている点があればお伺いしたい。

〔回答：廣内さん〕

子どもが小さいと熱を出すことが頻繁にあるが、一緒に働いている職場の方が、病院に行ってあげて、お母さんが近くにいてあげた方がいいよと言ってくれ、これがやはり働くうえで一番安心する言葉である。そういうときに言葉をかけてもらえると、迷いがなくなり、周りの方のサポートで働きやすい環境にしてもらっていると思う。

私は事務局次長だが、女性で役職があるのはどうなのだろうと自信がなかったが、職場の方から「廣内さんやってちょうだい、期待しているから」という言葉をいただいて、自信が持てた。

〔回答：十門地さん〕

建設業は男性でも敬遠しがちな職場で、女性の起用も難しいが、人材不足という業界の問題もあり、女性を起用しようという流れも出てきている。職種によっては重労働が多いというイメージがあるが、インプットすると機械が自動で動いてくれるＩＣＴ建設機械やドローンを使った測量、ＣＡＤなどで図面も全部パソコンでできる。現場では更衣室、トイレ、休憩室を男性とは別にしようという取り組みもある。

厚生労働省の統計では、建設業で働く女性の一般事務の率が75％だが、現場監督は８％に下がり、技能工になると２％になる。私も技術者として働いたが、やはりやりがいのある仕事であり、男女に関わらず好きな人はチャレンジしてやってみた方がいいと思う。

〔回答：田口さん〕

弊社は従業員数が40名程度で、そのうち３分の１程度が女性である。女性にとっては重労働と思われる部分もあり、女性が困ったりすることもあるが、従業員が少ないこともあり目が届きやすく、コミュニケーションが取りやすい環境になっている。子育てや介護などに直面したときには、社内規定で時短勤務、育休、産休などの制度を整備している。

現代では、女性が日本酒をつくるということに寛容になってきており、職場環境が整ってきていると感じている。

男性の育休については、弊社ではまだ取った事例はないが、早いうちに誰か一人でも取ってもらい、女性がもっと仕事をしやすい環境をつくっていかなければならないと思っている。

〔回答：田村さん〕

弊社も産休、育休の制度はしっかり整備をしており、産休、育休の取得率が100％、復帰もほぼ100％である。復帰の際も子どもの体調とか、自分も新しい環境に慣れるということもあるため、時短で半日からの復帰を勧めている。

弊社はベテラン社員も多くおり、介護の問題が出てくる。介護休暇の取得者はいないが、パート勤務の希望などにも柔軟に対応している。ベテラン社員は一通り子育ても経験してきていて、育児をしてきた先輩として若い女性社員への理解はあると感じている。

社員の昇進については、子育て真っ最中の社員が役職につくケースも多くなっており、役職につくスタッフを孤立させないように、周りでどうやって協力するか、相談に乗っていくかが大事

であると思っている。

〔回答：岩渕さん〕

カフェをやろうと思ったきっかけは、当時長男が０歳で、子どものことを一番に考えて、会社勤めをするよりは自分でお店をやった方が、融通が利くと思ったからである。また、知り合いの夫婦が農業を始めたという話を聞き、子どもにとっても、父母が楽しそうに働いている姿を見せることはいいと感じた。

お店を始めるときは私なんてと思ったが、家族の協力を得ながら、育児休業のときは店を休むことをお知らせし、２年くらい休業して、また再開しているところである。

〔回答：高屋敷さん〕

これからの若い人たちには子どものことを中心に考えて頑張ってほしいと思う。若い時に一生懸命働いたことは、60歳を過ぎてからでも、何か頑張ることにつながるのではないかと思う。

漁協も今はほとんどの研修がリモートだが、漁協はリモートの環境が整っておらず、リモートで勉強をするときなどは役場を借りなければならない。リモートをするためには設備を揃える必要があるが、そこまではできないため、最近は研修を全然できていないとの話を聞くが、若い人たちにはリモートで勉強し、いろいろなことを知ってもらいたいと思っている。

○軽石義則議員

県でも出会いの場の設定から始まり、結婚、育児、介護と支援制度がいろいろあるが、制度を提供する側の思いと制度を受けて活用する側の思いがずれているところもあると思うので、現場の方からの御意見をお伺いしたい。

〔回答：田村さん〕

先日、県のｉ－サポの担当者が県北地域でイベントをしたいので支援をお願いできないかと弊社にいらっしゃったが、イベントに対する積極的な支援は控えさせていただいた。今は多様性と言われている時代で、結婚して出産することがすべてではなく、幸せの形はそれぞれで、難しい問題だと感じている。

子育て支援は、市町村によって支援の差がとても大きいと感じている。結婚を機に盛岡市に引っ越した社員が、御主人の転勤でまた二戸市に戻ってきたが、子どもの通院にお金がかからないなど盛岡市には手厚い支援があったが、二戸市は支援が薄いと話していた。子育てに対して市町村の差がなく手厚い支援が受けられるようになれば、若い子たちの子育てももっと楽になると思われる。

〔回答：田口さん〕

子育て支援で支援金が出たり、出産一時金が増額されるなどの話があるが、産んだ時だけではなく、子どもは大きくなればどんどんお金がかかってくる。私も大学４年生と２年生の息子がいるが、今人生で一番お金がかかっているのではないかと思う。子育てとか出産だけではなく、将来を見越した経済的な援助などがあればいいと思う。

〔回答：廣内さん〕

出会いの場が少ないと困っている方も多く、久慈市観光物産協会での仕事とは別に、出会いの場を企画したいという気持ちがある。小さい町だとマッチングアプを不安に思う方も多いので、自治体の認証があれば安心して申し込みできるのではないかと思う。コロナ禍で、直接本人同士

が会えない、集まれないということもあるが、スマートフォンなどを活用して少しでも出会いの場をつくることができればいいと思う。
　子育てについては、予防接種が市町村によって有料、無料とバラバラなので、広域で統一できればいいと思う。

〔回答：高屋敷さん〕
　洋野町では出会いの場の企画があり、私も婚活推進セミナーの委員をしている。１年に２回くらいホテルなどで開催しており、10 組程度の参加者でも５組程度が成立し、結婚まで成立するのは１、２組程度である。

〔回答：十門地さん〕
　出会いの中でいい人と巡り合って、それが結婚につながり、子どもが生まれることが理想だが、結婚だけが人生ではないとも思う。弊社でも独身男性が結構いるが、性格的なものなのか、出会いの場にすら行かない人をどうやってそこにつなげていくかは難しいところである。技術者の女性でも独身が何人かいるが、自分に自信を持って仕事をしており、自分の人生の生き方を選べることも大事なのではないかと思う。

○軽石義則議員
　時代も変化して、社会環境も大きく変わってきている。現場の皆さんの生の実態をお聞かせいただき、次は我々の仕事として、それを制度化につなげていきたい。
　子育てにおいては、保育園に預けた後に体調が悪くなり、突然迎えに来てくださいというのが一番大変である。保育園や幼稚園に看護師が１人おり、仕事が終わるまで預かってもらえる制度になればいいが、そういう状況にはなく、今後の課題と感じている。

○神﨑浩之議員
　この３年間、コロナ禍で大変だったと思うがコロナ禍だからこそできた取り組み、例えば環境整備であったり、商品開発であったり実現しなかったものも含めて女性から提案があった取り組みなどがあればお伺いしたい。
　今は県議会で人と会っても、コロナ禍や物価高騰で大変だからなんとかしてほしいというお話が多い中で、皆さんは冒頭の自己紹介で明るく前向きな発言をされていたので、どのような提案や取り組みがあったのかお伺いしたい。

〔回答：岩渕さん〕
　新型コロナウイルス感染症の影響を受けているのは確かで経営も厳しいが、コロナ禍で遠くに出かけることのできない地域の高齢の方達がお店に来てくれている。コーヒーを飲みながら、「どこにも行けないね」とおしゃべりをしたり、ケーキを「おいしいね」と言ってくれている。コロナ禍だからこそ地域の方々一人一人と向き合うことができており、このような関係を大切にしていきたいと思っている。

〔回答：廣内さん〕
　ことしはコロナ禍で中止していた久慈市の大きなイベントである久慈秋祭りを３年ぶりに開催した。短縮して１日だけの開催だったが、みんなの「やりましょう」と言う前向きな声で勇気をもらった。
　ＳＮＳを活用して祭りの様子などをＹｏｕＴｕｂｅで配信した。ＳＮＳを活用した情報発信は

初めての試みだったが、やれることはやろうということで実施した。これは新型コロナウイルス感染症が収束しても続けていきたい。

〔回答：田口さん〕

私たちが取り組んでいるフードダイバーシティ事業はアフターコロナを見据え、インバウンド需要に向けて取り組んでいる。

飲食店と共にヴィーガンやハラルに対応できる食材の検討などをし、コロナ後に楽しんで食事をしていただけるように準備をしている。飲食店はコロナ禍で大変だがアフターコロナに向けて今から準備していこうという動きが広がっている。

○神﨑浩之議員

私の地元でも飲食店が空いた時間を利用してサウナに力を入れたところがある。サウナが全国的にも流行するなど、コロナ禍だからこそできた取り組みがあった。このような取り組みをこれからもみんなで考えて進めていきたいと思っている。

○工藤大輔議員

最近、岩渕さんのお店のようにハンドメイドのアクセサリーや木工製品などいろいろな物を置かれている方がふえていると思う。このような方々からは、起業するにあたってのハードルが高いとか、経営を継続していくのが大変だという声があるが、県北広域振興圏においてどのような環境であれば女性が起業しやすいか、また、どのような支援策を必要としているかお伺いしたい。

〔回答：岩渕さん〕

起業するにあたっては県と九戸村に支援金を申請した。新商品の開発など要件がある支援金もあるが、どのような支援があるか調べないとわからなかった。

起業したいと思っている人がいても、どのような支援があるのか、支援があること自体知らない場合もあると思う。知らないままでいるのはとてももったいないと思うので、もっとわかりやすくしてほしい。支援の要件もハードルが高いと思ったし、申請書類も多いと感じた。確認に必要な書類だとは思うが緩和していただければと思う。

○工藤大輔議員

県北広域振興圏は、県内でも所得の低いエリアなので世帯の収入を上げるために、起業や副業、６次産業化を目指したいと考えている方々に、地域全体で広域的に手厚く支援できる仕組みがあればと思っている。

もう一点、最近アンコンシャスバイアスという言葉がよく聞かれるようになった。建設業など、男性の意識改革が求められている分野が多いと思うが、女性が輝いて活躍できる社会、住み良い環境の実現に向けての思いや感じるところがあればお伺いしたい。

〔回答：十門地さん〕

働く男性の意識改革は、本当に必要だと思っている。女性だからできない、難しい、ではなく、どうやったらできるかという考え方をしていけば建設業のイメージアップにもつながると思う。実際に女性が現場で働くと現場が和やかになる。職員の態度や口調も優しくなるので、女性が働きやすい環境をつくっていくことで建設業ももっといい方向に変わっていけると思う。

○中平均議員

県北広域振興圏は人口減少に伴い生産人口も減ってきている中で、男性にも女性にも働きやすい環境づくりが必要だと思う。男女雇用機会均等法が制定され、女性が働きやすい環境が整ってきているが、職場に女性がふえて変わったこと、女性の発案で始まった取り組みや商品開発などがあればお伺いしたい。また、今後さらに取り組もうとしている課題などがあれば併せてお伺いしたい。

〔回答：田村さん〕

弊社は、もともと女性が多い職場であり、紳士服をメインに作っている。昨年度、イワテメイドアパレルプロジェクトという岩手県の支援を受けながら、メンズコートを発表したが、「どうして男性用だけなのか」という声があったことから、今年度は、メンズコートとレディースコートを発表した。以前であれば、「うちは紳士服専門だから、それでいいでしょう」となっていたと思われるが、女性の意見が採用されて商品化されたことは社内での進歩だと思う。

〔回答：高屋敷さん〕

ことしの４月に漁協の合併があり、洋野町漁業協同組合となった。今まで役員は男性のみだったが、合併後は役員に女性が２名入っている。

現在、アワビ漁の最盛期だが、今まで、何百ｋｇと採れるアワビの殻を外す作業は買い付け業者が行っていたが、今年は女性役員が中心となって、この作業を組合員の女性が担っている。ウニ漁と海藻取りの仕事に加えて仕事がふえてとても助かっている。

○上原康樹議員

岩手県の漁業は相当厳しい状況にある。男性も大変御苦労されていると思うがこの状況をどう見ているかお伺いしたい。

〔回答：高屋敷さん〕

女性部は年々収穫量も上がっており大丈夫だが、漁師をやっている男性の方は、燃油の高騰で大変だと思うので、広域振興局の支援に期待をしている。若い方には建設業などの副業をしている人もおり、会社でも漁業のために仕事を休みやすい環境をつくっていただければと思っている。

◆　感想

○佐々木努議員

先ほど出会いの場や少子化問題についても御意見をいただいたが、少しでもいいので企業の皆さんにｉ−サポに御協力をお願いしたいと思っている。マッチングアプリのお話もあったが、ｉ−サポもマッチングシステムなので紹介していただきたい。

女性の力なくしては岩手県、日本の発展はないと感じている。女性が活躍できるように支えていく岩手県にしたいと思っているので、その先頭に立っている皆さんにこれからもリードしていってほしいと思っている。

○廣内さん

きょうは皆さんからいろいろなお話を聞くことができて良かった。子どもから働いている自分をかっこいいと言ってもらえるように、また、地元の方々がここに住んでいて良かったと思ってもらえるように、これからも観光業を頑張っていきたい。

〇十門地さん

異業種の方々のお話を聞けてとても新鮮だった。業種が違くても悩んでいることは同じだと感じた。女性が一番苦労しているのは子育てと仕事の両立だと思う。会社、家庭、行政が一緒に支援していかないと進んでいかないのではないかと思う。今、建設業は人材不足が問題になっている。少子高齢化、建設業離れが言われているがこれを改善するためには労働力の多様性、いろいろな人が働きやすい環境をつくっていくことが大切だと感じた。

〇田口さん

異業種の方々とお話できてとても楽しかった。十門地さんの、女性がいると現場が和やかになるというお話を聞いて、なるほどと思った。職場の雰囲気をよくすることはとても大切だと思った。私たちの酒蔵では女性が少ないので、みんなが働きやすい職場環境をつくり、女性をふやしていきたい。そしてより良いお酒づくりをしていきたい。

〇田村さん

きょうは県北地区で異業種の方々とお話できてよかった。悩んでいることは同じだと感じた。また、先を見据えた活動をされていているお話を聞きとても励まされた。

〇岩渕さん

きょうは経営の規模などの違いはあったが、たくさんのお話が聞けて良かった。九戸村ではお店をやっている人や若い方々などが集まってワークショップをしたり村づくりをしようという動きがある。地域と共に自分のお店も発展できるように活動していきたい。

〇高屋敷さん

若い起業家の方や会社の方のお話を聞けてとてもうれしかった。私自身も子ども３人を育てながら一生懸命働いてきた。子育てが一段落した後も働きに出たり、お店をやったりした。若い時に頑張るとその後もいろいろなことにまた頑張れる。皆さんの益々の御活躍を期待している。

〇菅野ひろのり座長

きょうの意見交換では、職場におけるコミュニケーションや声掛けの大切さ、支援制度の充実が重要だと感じた。本日頂いた御意見・御提言は全議員で情報共有して議会活動に活かしていく。

足元の悪い中、御参加いただいたことに感謝を申し上げ、閉会とさせていただく。